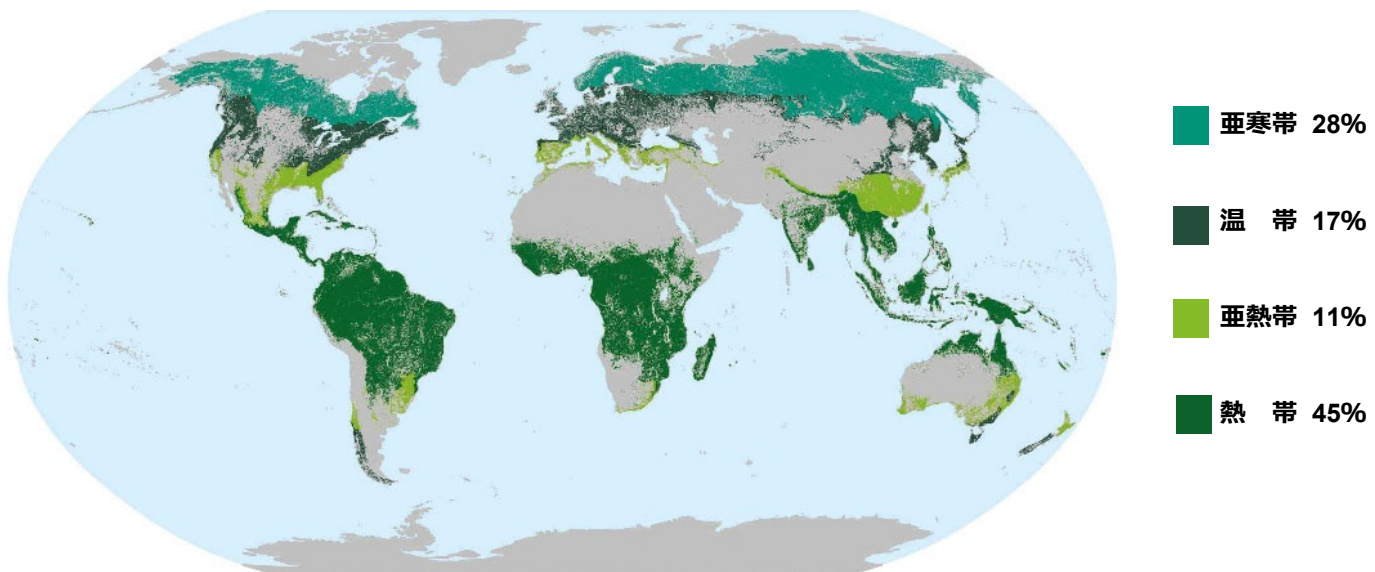


「世界森林資源評価2025」主な調査結果（仮訳） （FRA2025 Key findings）

世界の森林面積は40億ha超：約半分は熱帯に分布

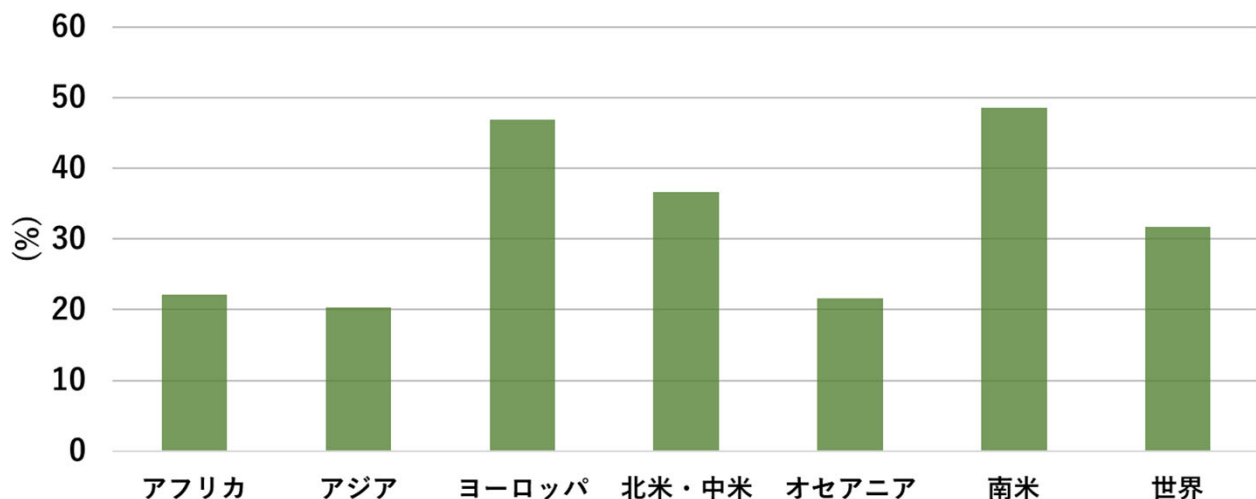
- 世界の森林面積は41億4000万ha。陸地面積の約3分の1（32%）を占め、一人あたりの森林面積は0.50haに相当する。
- 気候帯別に見ると、熱帯に分布する割合が最も多く（45%）、以降、亜寒帯、温帯、亜熱帯が順に続く。

気候帯別の森林分布（2025年）



- 地域別に見ると、ヨーロッパに最も多く分布し、世界の森林面積の25%を占める。
- 森林率を地域別に見ると、南米が最も高い（49%）。
- 世界の森林の半分以上（54%）は、ロシア連邦、ブラジル、カナダ、米国、中国の5カ国に分布する。

地域別の森林率（2025年）



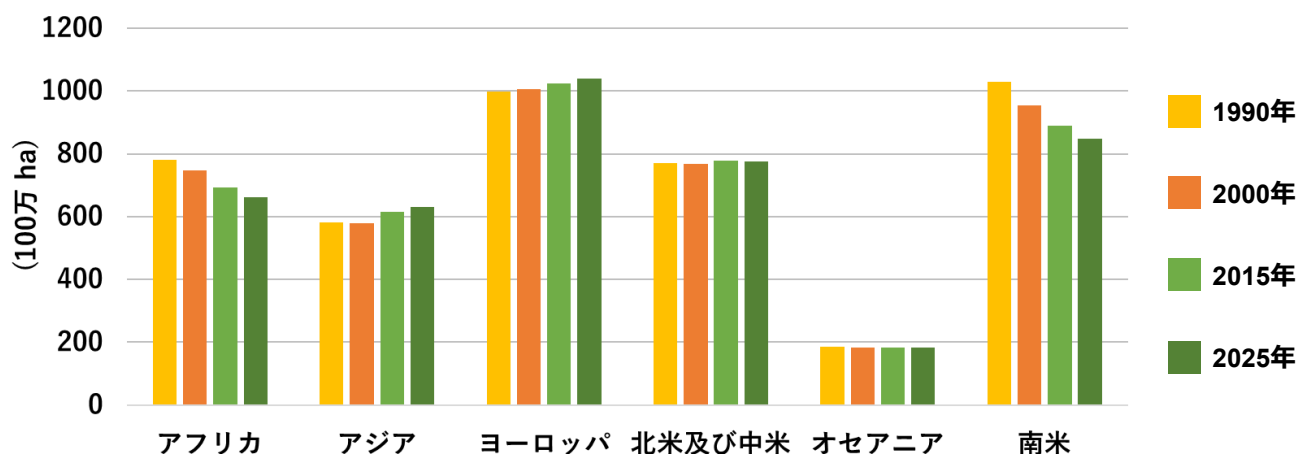
森林面積の純減速度は1990年代から半減

- 世界の森林の純減速度は、1,070万ha/年（1990-2000年）から412万ha/年（2015-2025年）に低下した。

※森林面積の純変化は、一定期間における森林減少と森林増加の差。森林減少が森林増加より大きい場合は純減。

- 地域別にみると、アジアでは1990年から2025年にかけて森林面積が増加したが、直近10年間は増加率が低下した。ヨーロッパでも35年間で森林面積が増加し、北・中米でもわずかな増加が見られた。
- アフリカと南米では、1990年以降、森林面積が大幅に減少したが、2025年までの10年間では両地域とも減少速度が低下した。

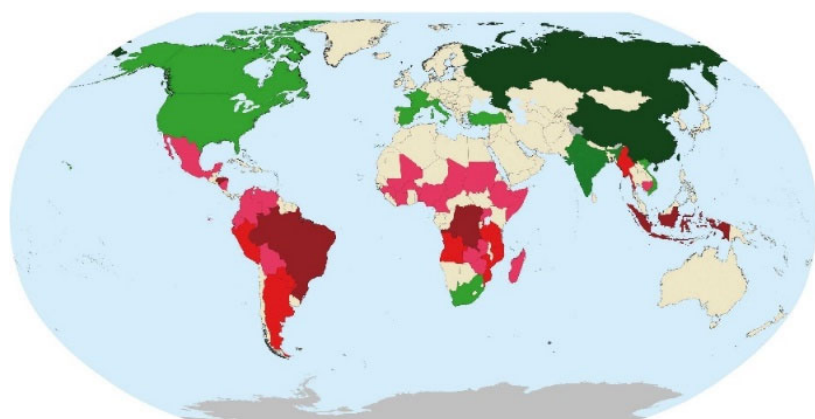
地域別の森林面積の推移（1990-2025年）



森林減少は減速傾向が継続

- 1990年以降、世界の森林減少面積は推定4億8900万haに上るが、減少速度は低下している。
- 直近10年間（2015～2025年）の森林減少面積は1,090万ha/年と推定され、1,360万ha/年（2000年～2015年）、1,760万ha（1990～2000年）から低下した。
- 森林増加速度も低下し、988万ha/年（2000～2015年）から、直近10年間（2015～2025年）は678万haに減少した。

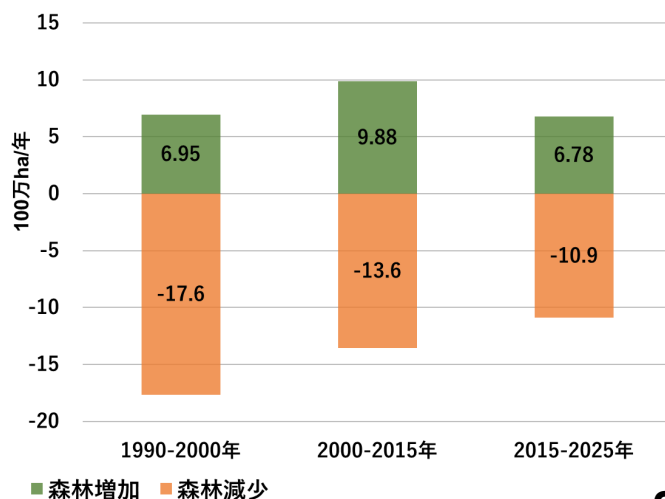
国別の森林面積の純変化（1990-2025年）



(1,000ha/年)

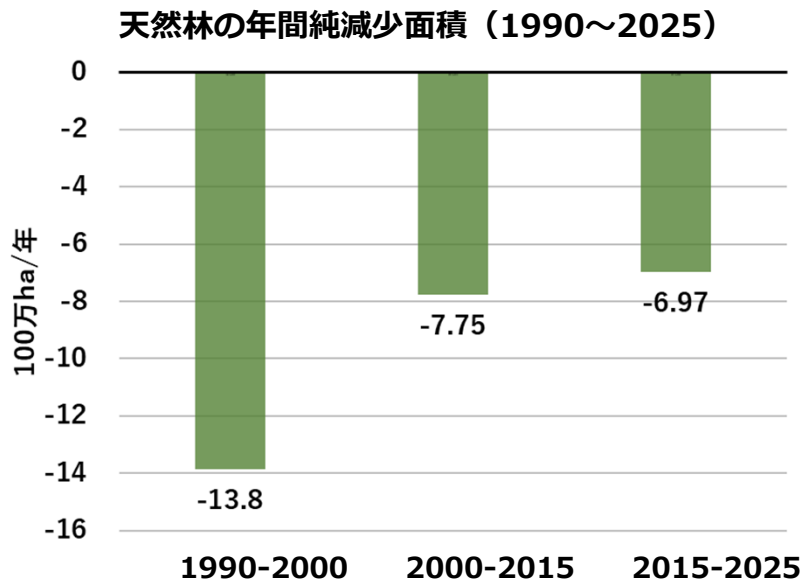
純増加量 > 501 251-500 51-250 > ±50
純減少量 > -501 251-500 51-250 No data

森林の年間増減面積
（1990-2025年）



森林面積の90%以上が天然林

- 天然林面積は38億3000万haであり、森林面積の92%に相当。
- 1990年から2025年の間に3億2400万haの天然林が減少したが、純減少量は1,380万ha/年（1990～2000年）から、697万ha/年（2015～2025年）に低下した。

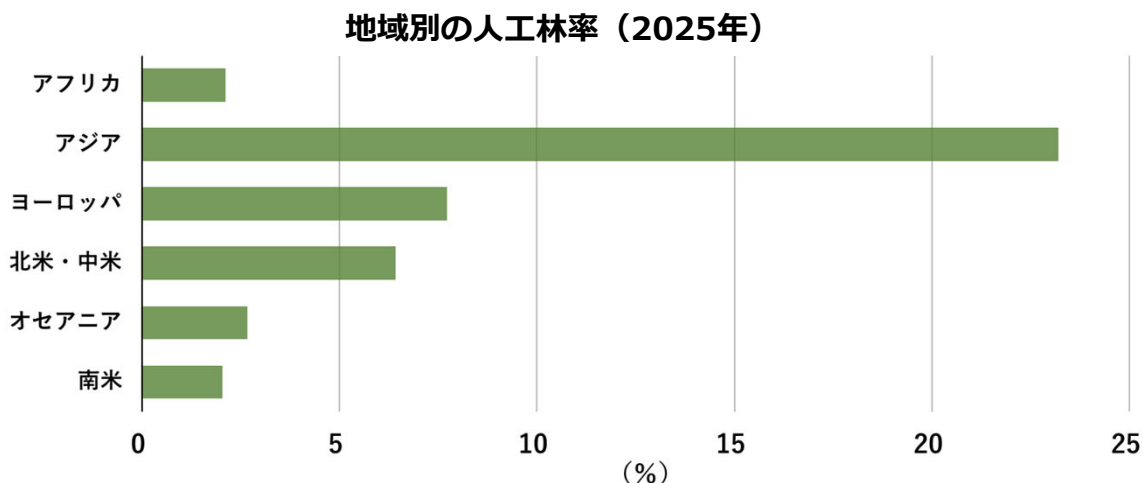


原生林は森林面積の約3分の1

- 原生林は少なくとも11億8000万haであり、世界の森林面積の29%を占める。
- 地域別にみると、ヨーロッパが3億1100万haで最も多く、次いで南米（2億9900万ha）、北・中米（2億8000万ha）が続く。
- 1990年～2025年の間に、1億1000万ha減少した。原生林の減少速度は、392万ha/年（2000～2015年）から161万ha/年（2015～2025年）へと半分以下に低下した。

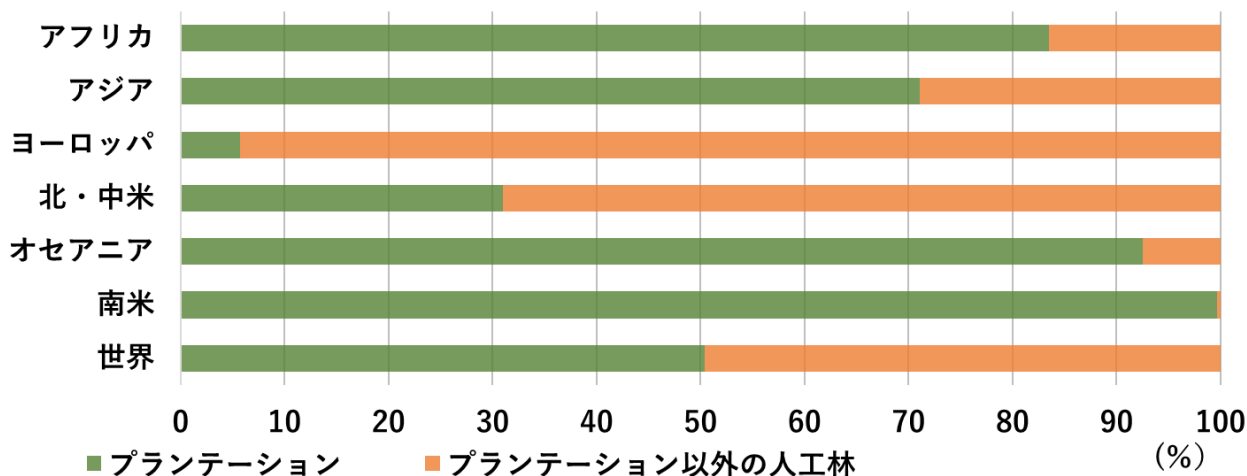
人工林面積の増加速度は鈍化

- 2025年の人工林面積は3億1200万haに上り、世界の森林面積の8%を占める。
- 地域別にみると、アジアが1億4600万haで最も多く、同地域の森林の23%を占める。
- 1990年以降、人工林面積は全地域で増加（合計1億2000万ha）したが、世界全体では直近10年間で増加速度が低下した。



- ・世界の人工林面積のうちプランテーションが占める割合は約半分。
- ・南米ではほぼ100%がプランテーションによる。南米のプランテーションのほぼ全て（95%）は外来種が用いられている。ヨーロッパはプランテーションの割合が最も低く、人工林面積の約6%。

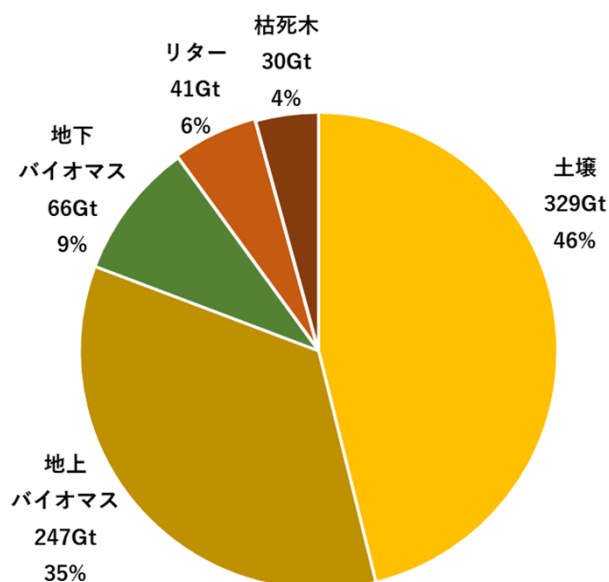
地域別の人工林に占めるプランテーションの割合（2025年）



森林の蓄積量・バイオマス量・炭素量は増加傾向

- ・2025年の世界の森林蓄積量は推定6,300億m³（平均152m³/ha相当）に上り、約3分の1は原生林に分布する。
- ・森林蓄積量、バイオマス量、炭素量は、1990年代に減少、2000年以降は森林の成長と共に増加した。気候帯別にみると大きな差異があり、亜寒帯林と温帯林ではこれら3つの指標が著しく増加した一方、熱帯林では急激な減少が見られた。
- ・2025年の森林バイオマス蓄積量は推定709ギガトンに上る（平均171トン/ha）。
- ・全ての炭素プールを含む森林炭素蓄積量は推定714ギガトン（平均172トン/ha）に上り、46%は土壌に、44%は地上・地下バイオマスに、10%はリター・枯死木に存在する。

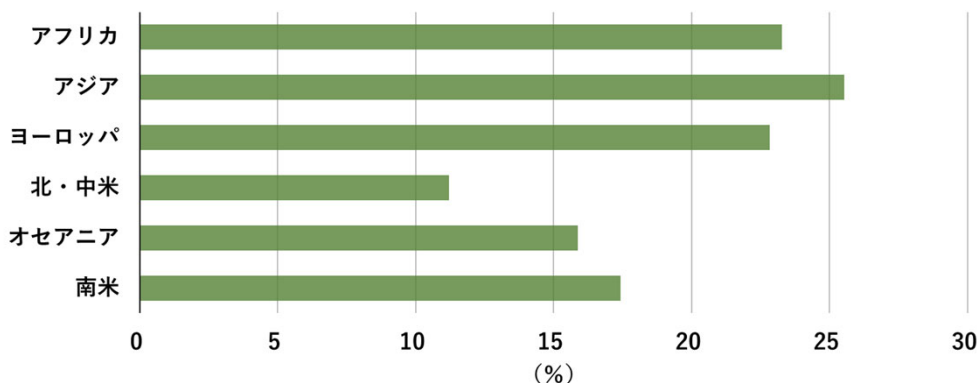
炭素プール別の森林炭素蓄積量（2025年）



世界の森林の5分の1は法的に保護された地域

- ・推定8億1300万haの森林が保護地域に指定されている。これは森林総面積の約20%に相当する。地域別にみると、アジアが保護地域に指定されている森林の割合が最も高い（26%）。
- ・1990年以降、世界の保護地域に指定された森林面積は、2億5100万ha増加した。

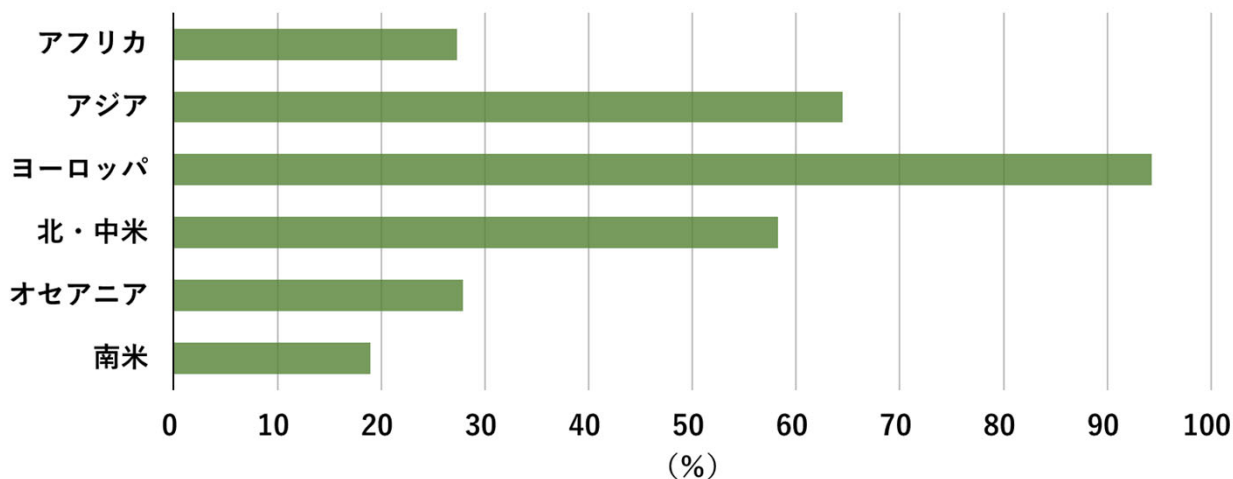
地域別の法的に保護地域に指定された森林の割合（2025年）



管理経営のための計画を有する森林は全森林の半分以上

- 1990年以降、管理経営のための計画の対象となる森林面積は全地域で増加しており、世界全体では3億6500万ha増加し、2025年には21億3000万ha（森林総面積の55%）に達した。
- 地域別にみると、ヨーロッパが管理計画下にある森林の割合が最も高い（94%）。

地域別の長期的な管理経営のための計画を有する森林の割合（2025年）



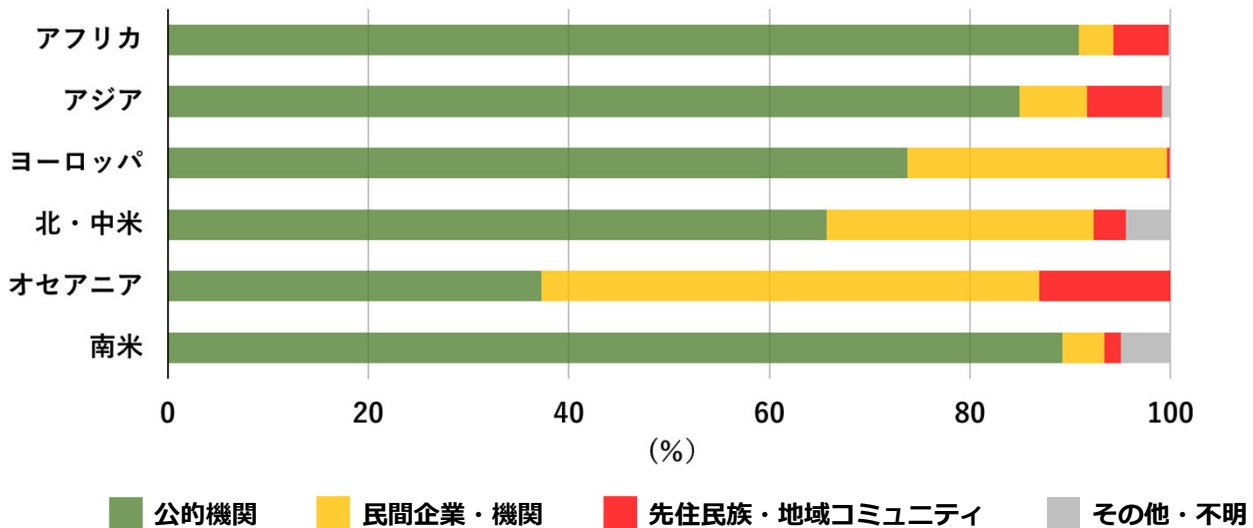
火災は亜熱帯で森林に広くみられる攪乱要因 病虫害及び異常気象は主に温帯及び亜寒帯に影響

- 森林は、その健全性や活力に悪影響を与え、産品や生態系サービスの供給能力を低下させる様々な攪乱に直面する。
- 火災は森林に対する大きな攪乱であり、森林減少、劣化の要因である。2007年から2019年にかけて、平均2億6100万ha/年の土地が火災の影響を受け、その約半分（49%）が森林で発生。2019年には約1億2300万haの森林が火災の影響を受け、79%は亜熱帯、8%は亜寒帯、8%は熱帯、6%は温帯で発生した。
- 病虫害、異常気象により2020年には約4,100万haの森林が被害を受け、主に温帯と亜寒帯で発生した。

世界の森林の大部分は国公有林

- 世界の森林の所有形態の71%は国公有林であり、24%は私有林、残りは「不明/その他」。
- 国公有林が全ての地域で大勢を占める。オセアニア、北・中米、南米では、私有林の割合が高く、各地域の森林面積の3分の1以上を占める。
- 公的機関による管理は、オセアニア（「私有林」が優勢）を除くすべての地域で主流であり、アフリカ（91%）、南アメリカ（89%）、アジア（85%）で高い割合を占める。
- 世界的に見て、1990年から2020年にかけて、公的機関が保有する管理権の割合は94%から81%に減少した。一方、民間企業・機関によって管理される国公有林の割合は4%から15%に増加した。先住民族および地域コミュニティによって管理される国公有林の割合は1990年から2020年にかけて、2%から3%に増加した。

管理権保有者別、地域別の国公有林面積の割合（2020年）



世界の森林における主要な管理目的は「生産」

- 全世界では、12億ha（森林面積の29%）の森林が木材及び非木材林産物の生産を主たる目的として管理経営されており、これに加えて多目的利用のために指定されている森林6億1600万haも、しばしば生産目的が含まれている。
- 生産用に指定された森林面積が最も大きいのはヨーロッパで、5億4800万haに上り、これは同地域の森林総面積の半分以上、世界の生産目的の森林総面積のほぼ半分を占める。
- 世界的に見て、1990年から2025年にかけて、生産または多目的利用を主たる目的として指定された森林面積はそれぞれ2,980万haと9,750万ha減少した。

世界の森林の約12%が生物多様性保全のために指定

- 全世界では、4億8200万haの森林が生物多様性保全を主たる目的として指定されており、1990年と比較して1億1800万ha増加した。
- 地域別では、アフリカが生物多様性保全に指定された森林面積が最も広く、1億3000万ha（同地域森林面積の20%）を占める。

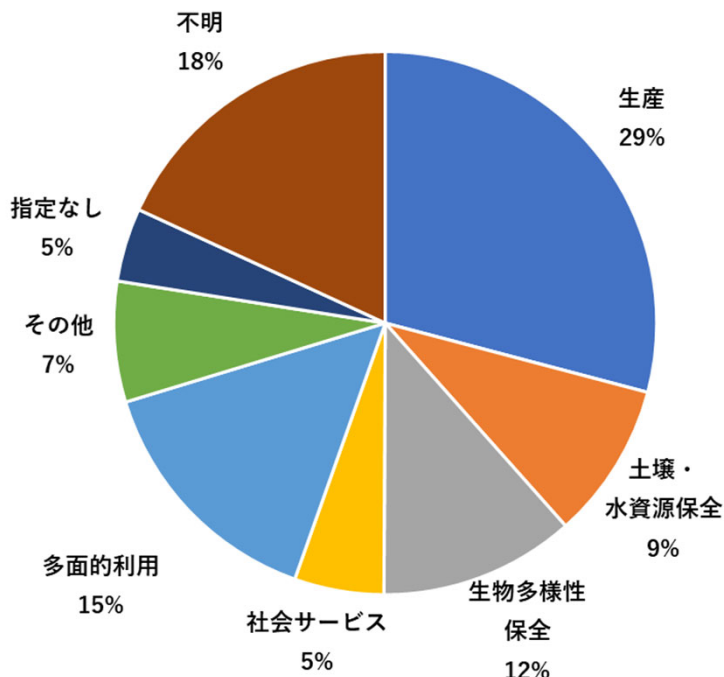
世界の森林の約9%は、主に土壌と水資源の保全を目的として指定

- 3億8600万haの森林が土壌・水資源の保全を主たる目的として指定されており、1990年以降、1億2300万ha増加した。同目的に指定された森林の面積は増加傾向にあり、とりわけ直近10年で顕著。
- 地域別では、ヨーロッパが土壌・水資源の保全を目的とした森林面積が最も大きく、1億7300万ha（同地域森林総面積の17%）を占める。アジアは土壌・水資源の保全に指定されている森林の割合が最も大きく、20%を占める。

世界の森林の5%以上は主に社会サービスのために利用

- 全世界では、2億2100万haの森林がレクリエーション、観光、教育研究、文化的・精神的な場所の保全等の社会サービスのために指定されている。これは1990年以降7,920万haの増加であり、2015年から2025年にかけて増加率が最も高くなる。地域別では、南米が社会サービス向け森林面積が最大（1億5400万ha）である。

管理の主目的別の森林面積割合（2025年）



森林劣化の定義の動向（FRAメインレポート抜粋）

- 世界の森林面積の約37%に相当する59の国・地域が、森林劣化についての国内定義を有していると報告。公式な定義を有している国・地域の割合が最も高いのはアフリカ（国・地域全体数の41%）であり、次いで南米（29%）、アジア（27%）。
- 定義の内容として大きく2つのグループがあり、1つは攪乱（違法伐採、火災等）の種類を列挙するもの、もう1つは森林構造の変化、林産物供給の減少、生物多様性の損失等の攪乱の影響を説明するもの。

世界森林資源評価（FRA）2025 関連リンク

- メインレポート（Key findingsを含む）：
<https://openknowledge.fao.org/items/090d2fbb-32a6-412b-a3b8-1ce5c5905df2>
- 国別報告：
<https://www.fao.org/forest-resources-assessment/fra-2025-country-reports/en>
- 国・地域別の最新データ：
<https://fra-data.fao.org/assessments/fra/2025>

【仮訳作成：林野庁 計画課 海外林業協力室】